



[祈りと信仰のまち京都]

景 094 (H28) 歴 082 (H28)

鴨川の東岸、丸太町通と東大路通の北西にある熊野神社は、平安時代の弘仁2年(811)、阿闍梨日圓上人がこの地に紀州の熊野権現を勧請したのが始まりです。応仁・文明の乱により社殿は焼失し、その後荒廃しましたが、寛文6年(1666)聖護院宮道寛法親王により再興されました。京都三熊野(他に、新熊野神社、若王子神社)の最古社で、「権現さん」と呼ばれ親しまれています。

ハッ橋発祥の地としても知られ、境内には、ハッ橋中興の祖・西尾為治の銅像やハッ橋のお店があります。

かつて広大な社域であった、聖護院の森を偲ばせる緑豊かで静穏な境内に入ると、唐破風と千鳥破風、入母屋の複合した拝殿・前拝所・翼廊と、高く嵩上げされた本殿の屋根とが複雑に組み合わさり、独特の造形美を現しています。

本殿は、天保6年(1835)の下賀茂神社式年遷宮の際に、旧本殿が当社に移されたもので、切妻平入りの屋根の前面を葺下しにする流造です。祭祀の準備を整える場としている祖霊殿は、元は本殿の前に配置され拝殿として使われていましたが、現在は壁などを建て、室内とした部分に祖霊を祭っています。

古くから、節分の日「火の用心のお札」を受ける風習が引き継がれ、この日は多くの参拝者で賑わいます。



本殿



拝殿内部



〒606-8392 京都市左京区聖護院山王町43

電話番号 075-771-4054

アクセス 市バス「熊野神社前」徒歩約1分